

## 次年度に取り組むべき課題について

### 1. 経緯と概要

これまでの2回の地域協議会を通じて、地域協議会の実施要領、設置の意義などで合意し、また、協働を発展させるための方策について、協働のハンドブックとしてまとめ、提言している。地域 NGO と JICA 中部とが、年2回定期的に協議する場として、その開催は定着しつつある。

今後の地域協議会では、協働を発展させるための具体的な成果を生み出していくことが求められると考える。地域協議会の設置の意義では、地域協議会を以下の3つの場として位置付けており、それぞれに具体的に何ができるのかを、地域 NGO-JICA 双方が出し合い、議論を深めたいと考えている。

- 1) 相互理解と関係構築
- 2) 相乗効果のための対話
- 3) 地域と世界をつなぐプラットフォーム

これらの個々の内容について、2013年度にどのような内容について取り組めるかを協議したい。

### 2. 相互理解と関係構築

#### (1) 協働のハンドブックの周知と活用

2013年3月までに、協働のハンドブックの別冊部分も完成する見込みである。今後は、ハンドブックの周知と実際の活用の推進が重要となる。活用促進のワークショップを第一四半期に行う予定。

#### (2) その他、何かあれば、ご提案ください。

#### <設置の意義に記載の内容>

市民の発意に基づく NGO/NPO と、日本政府の ODA 実施機関である JICA との間には、社会的役割、組織文化、財政規模等において自ずと相違がある。そのような両者が連携していくためには、お互いを知り、理解を深めていく必要がある。組織を越えた人的交流と率直な意見交換の機会を設けることで、双方の関係を構築・強化していく。

### 3. 相乗効果のための対話

#### (1) 草の根技協 案件形成・実施の質的向上

今回の協議会において、JICA 中部側から、「草の根技協 案件形成・実施の質的向上」について、問題提起がされ、協議した。草の根実施団体の参加が限定されている場なので、ここで合意するのは難しい面もあるが、大部分の草の根実施団体の了承を前提に、実施団体と JICA 中部とが対話を通じて、質的向上のために、双方が何を行うべきかを議論し、改善案をまとめていくことを地域協議会として後押しできるものと思われる。

(2) 地域 NGO にとって必要な連携

今回の協議会において、地域 NGO 側から、「地域 NGO にとって必要な連携」について、問題提起がされ、協議した。さらに協議を続け、今後の合意内容の具体化を目指す。

(3) その他、何かあれば、ご提案ください。

<設置の意義に記載の内容>

それぞれの経験、知見を持ち寄り、新しい事業や新しい制度など、地域での国際協力活動を発展させる提案ができる場とする。双方の強みを活かすことで相乗効果を生み、活動の質を高めていく。

### 3. 地域と世界をつなぐプラットフォーム

(1) 地域の企業と NGO との連携強化について

地域の企業と NGO とが出会いお互いwin/winの関係での連携に発展させる場が限られている。JICA 中部と地域の NGO ネットワークが連携して、その場づくりなどを行う。

(参考) 2011 年度に、JICA 中部から、企業と NGO 双方へアンケートを実施し、そのアンケート結果を web サイトで公開するなど、地域の企業と NGO との連携を後押しする提案がされた。これを受けて、地域協議会のコーディネータ会議で検討したところ、すでに同種の調査が愛知県などで実施されており、その報告書も公開されていることがわかったため、アンケート等の実施を見送った経緯がある。

(2) 大学、自治体等との連携強化について

JICA 中部と愛知大学との連携が始まるなど、従来の JICA と大学との連携に加え、新しい動きがある。さらに、草の根技術支援の地域提案型の取り組む自治体に、NGO が協力するなど、自治体と NGO との連携の可能性もある。JICA 中部と大学、自治体との連携に、NGO が協力あるいは協働の余地が今後増えていくものと考えられる。

(3) その他、何かあれば、ご提案ください。

<設置の意義に記載の内容>

国際協力のアクターは、近年、自治体、大学、企業など多様化し、地域に根差しながらも国際的な視野で身近な取り組みを行う「グローバル市民」も増えている。また、途上国での経験を日本の地域に活かしたり、その逆の取り組みも生まれ始めている。協議会は、そうした動きにも対応し、地域における国際協力の「プラットフォーム」としての役割を果たしていく。

以上